

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会

令和7年度事業報告書

1. 事業環境

令和7年度は、2024年9月にP2M標準ガイドブック改訂4版を発行したのを機に開始したP2M普及推進活動を更に強化する事、さらには、令和7年がPMAJ創立20周年にあたるのを捉え、展示やイベント等を通してPMAJの認知度を高め、新たな会員企業・個人会員、P2M試験受験者を増加すべく積極的なイベントの展開や広報活動を実践した。その結果、会員活動全般に参加人数の増加、活動の活性化についてはかなり実現できたと考えている。

一方で、活動の推進に伴い、そのための経費も増加し、財政面においては、年間の収支がマイナスになる結果となった。この要因は、非定常的な経費（20周年記念展示、PMIグローバルPMサミット参加、P2Mガイドブック改訂に伴う新試験への対応、人材強化）が大きな要因ではあるが、最近の物価高騰の影響も大きく、来期においては経常経費の見直しと参加費等の改訂も含めて対応をとる必要があると考えている。

個々の取り組みにあたっては、PMシンポジウムでは、今年も企業の担当窓口に早期に事前PRを行ったことなどにより、昨年を上回る集客が実現できた。また、併せて行った20周年記念展示や、これまで協力をいただいたボランティアへの感謝の意を込めた懇親会には懐かしいメンバーが多数参加され、交流が図られた。

資格試験・講習・研修においては、PMC・PMS試験の受験者数は継続して過去最高を更新しており、また、企業として試験制度を活用する動きが出てくるなど活用の広がりが実感されてきている。懸案であった、P2M改訂4版に沿った試験問題作成やテキスト改訂についても、計画的に実施され、予定通り移行することが出来た。

一方で、最大の課題である会員については、法人会員は純増となり計画を上回ったが、個人会員は昨年同時期に比べ17人減となり減少傾向に歯止めが掛からない状況にある。

この要因としては、活動の活性化が会員の増加につながりにくい仕組みの存在や、会員層の高齢化、新規分野への知名度の未達など、様々な要因が考えられ、現在行っている運営会議の場で、課題管理活動を継続して推進して行きたい。

1. 総会・理事会・運営会議

(1) 総会・理事会の開催

- ① 通常総会1回、理事会4回及び臨時理事会1回をオンラインで開催した(表7,8参照)。
- ② 運営会議11回をハイブリッドで開催した(表9参照)。

(2) 新役員及び役職役員の選任

6月19日(木)開催の定時総会において、新任理事14名を選任した。また、7月1日(木)開催の臨時理事会において、7名の役職役員を選任した。

2. PMAJ 施策

2-1 令和7年度通期事業実績

(1) 会員（法人、個人）

- ・法人会員は退会2社、新規入会5社（うち1社は特別会員新規入会）で、法人会員総数は3社増の96社となり、計画の95社を上回った。
- ・個人会員は、先期に比べ17名減の803名となり、計画の850名には達しなかった、

(2) 部会・SIG活動

- ・PMシンポジウム2025において9の部会・SIGから会員活動講演を行った。
- ・部会SIG、地域PM部会の活動内容を運営会議・理事会で報告し、状況の確認と活性化に向けた協議を行った

(3) IT化・DX化

- ・セミナー受付システム改修に向けて検討を開始した。

(4) 広報・マーケティング

- ・SNSを活用し広報・マーケティングの効果拡大につなげた。

(5) P2M改訂4版の普及推進

- ・2024年9月び発行した「P2Mプログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック改訂4版」は初版2,500部が完売し増刷りとなった。）

(6) 他団体との連携

- ・エンジニアリング協会（ENAA）、PMI日本支部、JUAS、デジタル庁などとの交流を深めた。
- ・国際P2M学会と相互に特別会員として入会。
- ・各地域大学、地方行政機構との交流を深めた

(7) グローバル対応

・英文HPは、グローバルPMSIGにて継続的に仕組み、教宣内容を協議し、協会から内外に如何に発信していくかを見直し改訂作業継続中。

・PMI® ATP（Authorized Training Partner）を継続し、PDUの発行、PMI®関連部会セミナーの実施を継続。

・PMI® と ENAA 及び PMAJ による 3 者協定（覚書）のメリットを実現すべく、定期的な協議を継続。

・NIN2.P2M（Facebook）PM 教宣の為に PMAJ の教材を英訳し毎週投稿。（2016/04 開始） PMAJ 発行「PBL のすゝめ」、「プログラムマネジメント革命 Program Management Transformation）のすゝめ」の投稿実施を継続。

・GAPPS Thought Leadership Forum（TFL）への参加を継続。

・要請のあった GAPPS TLF 日本開催については、2026 年 9 月中旬に開催する方向で検討を進め、9 月 12 日、13 日に早稲田大学にて開催を決定。

(8) 会員・資格者交流活動

・PMC 資格者への〈意識調査〉アンケートを実施。それをベースに、少人数の準備会で議論を継続中。

・「夢工学サロン」を通算 15 回開催し、第 1 フェーズを完了。

第 1 フェーズのまとめとして、「夢工学物語一実践ガイド」を執筆し、講師の査読中。

・定例交流会による会員価値の向上について、月 1 回ペースで交流会を開催。

表 1. 【会員数】

	令和7年度 計画	令和7年度 上 期実績	令和7年度 通期実績
法人会員	95 社	96 社	96 社
法人正会員	78 社	78 社	78 社
法人賛助会員	1 社	1 社	1 社
法人特別会員	16 社	17 社	17 社
個人正会員	850 名	763 名	803 名

表 2. 【会員会費収入】

(単位：千円)

	令和7年度 計画	令和7年度 上期実績	令和7年度 通期実績
法人会員会費等収入	9,480	9,738	9,822
個人会員会費等収入	5,740	4,439	4,980
会費等収入計	15,220	14,593	14,802

3. PM人材育成事業（P2M 資格試験・認定等）

3-1 令和7年度通期事業実績

(1) P2M 資格試験

- ・ PMS 資格試験、PMS プログラム試験、PMC 資格試験共に年度計画を達成した。
(計画 22,738 千円 実績 32,478 千円 143%)
- ・ PMS 資格試験および PMS プログラム試験は継続顧客(P2M を活用した社内研修
を実施している企業、「高度 PM 人材育成」を情報公開している企業)の受験者が多かった。(計
画 11,520 千円 実績 16,785 千円 146%)
- ・ PMC 資格試験は期末に特定の2社からの大量受験があった。(大手 ICT 企業グループの保守運用
サービス企業、サイバーセキュリティ関連企業) (計画 8,990 千円 実績 14,090 千円 157%)
- ・ 企業内で活躍する使命達成型職業人を増やすため、資格認定委員会関連タスク
フォースで新資格(PMQ 資格)を検討した。2026 年度から新設する。
- ・ CBT 試験システムを P2M ガイド改訂 4 版に対応させ、10 月に PMS 資格試験と PMS プログラム試
験、11 月に PMC 資格試験を切り替えた。
- ・ 4 月に正式に P2M 資格制度に組み込まれた PMCe 資格は対象学校が 1 校増え 7 校となった。

(2) P2M 講習会

- ・ PMC 講習会、PMS プログラム試験対策講座、PMR 養成研修共に、継続顧客 (ITSM 関連企業、県の
補助金を利用した企業) を中心に受講があり、年度予算を達成した。
(計画 12,422 千円、実績 15,523 千円、125%)
- ・ P2M 講師陣・業務委託先と連携して、7 月 PMS プログラム試験対策講座、8 月 e ラーニング、9 月
PMC 講習会を改訂 4 版対応に切り替えた。
- ・ 改訂 4 版対応のミニ動画講座(6 講座、13.7 時間)を下期から販売した(675 千円)。オンライン講

座を1講座追加し11講座とした。

- ・Google 広告の年間実績は、表示回数 11.5 万件(週 2,200 件)、クリック数 10,728 回(週 206 回)であった。改訂 4 版で強化されたプログラムマネジメント普及のため、Google 広告の最適化、SEO (検索エンジン最適化) 対策、Web コンテンツの充実を継続する。

(3) 企業・団体・大学向け PM 講座

- ・企業向け PM 研修 8 回、団体向け海外人材 PM 研修 5 回を実施した。

(4) その他講習(特別企画講座・共催講座)

- ・特別企画講座は、9 講座の開催予定に対して 8 講座開催した。
- ・共催講座は、1 社追加し 3 社となった。

表 3. 【P2M 資格試験 応募者数】

資格試験種類	令和 7 年度 計画	令和 7 年度 上期実績	令和 7 年度 通期実績
PMS 資格試験	178 名	62 名	272 名
PMS プログラム試験	126 名	57 名	150 名
(PMS 計)	304 名	119 名	422 名
PMC 資格試験	409 名	140 名	627 名
PMR 資格一次試験	7 名	6 名	6 名
PMR 資格二次試験	6 名	0 名	5 名

表 4. 【P2M 講習会 受講者数】

講習会種類	令和 7 年度 計画	令和 7 年度 上期実績	令和 7 年度 通期実績
PMC 講習会	66 名	35 名	71 名
e ラーニング	344 名	264 名	567 名
PMS プログラム 試験対策講座	20 名	10 名	20 名
e ラーニング	56 名	26 名	45 名
PMR 養成研修	7 名	9 名	9 名

表 5. 【PM 人材育成事業収入】

(単位：千円)

	令和 7 年度 計画	令和 7 年度 上期実績	令和 7 年度 通期実績
P2M 資格試験	22,738	9,027	32,478
P2M 講習会	12,422	7,883	15,523
企業・団体・大学等向け PM 講座	11,810	3,900	9,745
各種 PM 講座(PMP 関連、 特別、共催)	2,050	1,019	2,232
事業収入計	46,827	21,829	59,978

4. P2Mに関する普及・啓蒙事業

4-1 令和7年度通期事業実績

(1) PMシンポジウム

メディア・大学・自治体等が主催する無料講演会增加していることが本年もシンポジウムの参加者に影響するのではないかと考え計画を立てたが、参加申込開始の事前PRを企業の担当窓口に行ったこと、特定企業グループのPMコミュニティへの積極的参加案内の効果により、参加申込者は1,259名（前年実績1,236名）と昨年以上となった。

(2) 東京地区開催のPMセミナー

昨年、産学官連携PMセミナーを発展的に“新しい教養P2Mセミナー”に改め2年目となる本年は法人正会員担当者を招待し11月14日に開催、参加申込は75名（前年実績80名）

PMAJ創立20周年となる“新春PMセミナー”を新年1月23日に開催、参加申込は547名（前年実績572名）。法人正会員・ENAAをはじめとする関係企業・団体を招待し本セミナー終了後に“創立20周年・新年賀詞交歓会”を酒樽の鏡割りで始め、今までにない賑やかなコミュニケーション新年の会となった。来年度もより良いコミュニティの場となる様継続実施する。

(3) 地域開催のPMセミナー

上期は、昨年開催しなかった東北PMセミナーを5月16日に開催した。セミナーは参加者=55名（前回=25）と倍以上。6月6日に関西PMセミナー参加申込=100名（前年=80名）、7月18日に北海道PMセミナー参加申込=81名（前年=97名）を開催し。下期には、10月10日に中部PMセミナー参加申込=48名（前年=54名）、10月24日に中四国PMセミナー参加申込=76名（前年=46名）、12月5日に九州PMセミナー参加申込=51名（前年=68名）。2026年2月20日に沖縄PMセミナーを隔年開催・参加申込=78名（前回=84名）。“ナスカの地上絵”“AIオザケン”の特異なテーマで東北と中四国は前回よりも参加者増となった。他のPM研究部会ではリモート参加者が少し減った。

(4) 例会

P2M普及推進部会が作成したP2M活用事例集の執筆者から3名の方に登壇いただくなど、多彩な講師を招き12回（毎月）開催した。

表6. 【P2M普及・啓蒙による事業収入】

（単位：千円）

	令和7年度 計画	令和7年度 上期実績	令和7年度 通期実績
PMシンポジウム	32,000	36,502	36,502
東京地区PMセミナー	3,135	0	3,592
地域のPMセミナー	2,000	1,016	2,103
月例会 書籍販売等	4,550	693	1,692
事業収入計	41,685	38,211	43,889

表 7. 【総会】

	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2025. 6. 19	通常総会	377 名	令和 6 年度事業報告(案)および決算報告(案) の件 令和 7 年度事業計画(案)および収支予算(案) の件 役員候補者選任の件	可決 可決 可決

表 8. 【理事会】

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2025. 06. 05	定例	34 名	令和 6 年度事業報告及び収支報告について	承認
				令和 7 年度事業計画及び予算(案)について	承認
				役員候補者選任の件	承認
				PM シンポジウム 2025 状況報告	承認
				PMAJ イベント状況報告	承認
				部会・SIG 活動状況及び地域 PM 研究部会活動状況について	承認
				PM 標準ガイドブック改訂 4 版の普及・推進について	承認
				会員状況について	承認
	2025. 7. 1	臨時	42 名	役職役員の選任について	承認
2	2025. 10. 23	定例	40 名	令和 7 年度上期事業報告について	承認
				PM シンポジウム 2025 結果報告及び PMAJ イベントの状況について	承認
				部会・SIG 活動状況報告及び地域 PM 研究部会活動状況報告	承認
				会員状況について	承認
				理事の役割検討	承認
3	2025. 12. 18	定例	40 名	令和 7 年度第 3 四半期及び通期事業見通しについて	承認
				PM シンポジウム 2026 の状況報告及び PMAJ イベントの状況について	承認
				新 SIG 発足と部会・SIG 活動状況報告及び地域 PM 研究部会活動状況報告	承認
				会員状況について	承認
				理事の役割検討	承認

4	2026. 3. 19	定例	42名	令和7年度通期事業見通しと令和8年度事業計画骨子について	承認
				PMシンポジウム2025状況報告	承認
				PMAJイベント状況について	承認
				部会・SIG活動状況報告及び地域PM研究部会活動状況報告	承認
				会員状況について	承認
				理事活性化について	承認
				新資格(PMQ)に関する報告	承認

表9. 【運営会議】

	開催日	備考	回	開催日	備考	回	開催日	備考
1	2025. 4. 15		5	2025. 9. 16		9	2026. 1. 20	
2	2025. 5. 20		6	2025. 10. 21		10	2026. 2. 17	
3	2025. 6. 17		7	2025. 11. 18		11	2026. 3. 17	
4	2025. 7. 15		8	2025. 12. 16				

表10. 【P2M講習会実施状況（受講者数推移）】

開催月	PMC講習会	PMSプログラム 試験対策	PMR養成研修
5月	10名	3名	
7月	5名	7名	4名
9月	20名	0名	5名
11月	18名	8名	
1月	14名	2名	
3月	4名	0名	
計	71名	20名	9名

表11. 【PM一般研修】

日	開催日	テーマ等	参加者
PMBOK関連講座	2025. 5. 17	PMBOK®ガイド基礎講座	3名
	2025. 6. 14	PMBOK®ガイド第7版講座	4名
	2025. 9. 20	PMBOK®ガイド基礎講座	4名
	2025. 9. 27~10. 18	PMBOK®ガイド&プロセス群：実務ガイド解説講座	3名
	2026/1/24	PMBOK®ガイド基礎講座	5名

	2026/2/8~21	PMBOK®ガイド&プロセス群：実務ガイド解説講座	3名
	2026/2/28	PMBOK®ガイド第7版講座	3名
特別講座	2025. 5. 23	プロジェクトマネジャーの正しい育て方 (吉野)	14名
	2025. 6. 6	アジャイル開発への道案内 (小原)	2名
	2025. 7. 11	価値実現を見届ける「プログラムマネジメント現場適用」(近藤)	6名
	2025. 10. 3	『ものがたり継承法』講座Ⅱ DX時代のリーダーに不可欠なPMの本質 (吉野)	8名
	2025. 10. 17	世界のPMO動向 (片江)	11名
	2025. 12. 12	プロジェクトマネジャーの正しい育て方 (吉野)	10名
	2026. 2. 6	『ものがたり継承法』講座Ⅱ DX時代のリーダーに不可欠なPMの本質 (吉野)	3名
	2026. 2. 13、20	価値を創造するプロジェクトのためのPMO導入の勧め (永谷/片江)	7名
	PM共催講座	2025. 4. 8	プロジェクト監査の理論と実際 (PMO)
2025. 4. 15		事例に学ぶPMOの立上げと運営 (PMO)	1名
2025. 6. 18、20		プロジェクト計画書の作り方・書き方・活かし方 (PMO)	2名
2025. 6. 25、27		クリティカルシンキング入門～システム思考で考える (PMO)	1名
2025. 8. 21、22		PM標準10のステップ・コース (プラネット)	1名
2025. 10. 1		コンセプチュアル思考によるコンセプト力講座 (PMO)	1名
2025. 12. 17		「影響力の法則(R)」を活かすステークホルダーマネジメントの実践 (PMO)	1名
2026. 1. 21		プロジェクト監査の理論と実際 (PMO)	2名
2026. 1. 23		クリティカルシンキング入門～システム思考で考える (PMO)	1名
2026. 2. 28		プロジェクト計画書の作り方・書き方 (PMO)	1名

表 12. 【例会】

	開催日	講演者	テーマ	参加者
302回	2025. 4. 25	吉村 真人	P2Mのフレームワークを用いた戦略的思考力育成研修	45名
303回	2025. 5. 23	細見 純子	リジェネレーションへ：SDQキューブテンプレートの取組み	26名
304回	2025. 6. 27	川野いずみ	挑戦マインドのつくり方	32名
305回	2025. 7. 25	守屋 靖裕	システム開発・運用保守の生産性・品質向上のためのAI活用	47名
306回	2025. 8. 22	小池 明男	失敗しない「人と組織」	60名

307回	2025. 9. 26	菊地佳代子	大学の医薬品実用化研究を担うプロジェクトマネジャーの役割と育成	29名
308回	2025. 10. 31	紙谷 昌弘	組織マネジメントにおけるリーダーのあり方	23名
309回	2025. 11. 28	枝窪 肇	品質の向上と顧客満足の獲得	33名
310回	2025. 12. 19	酒井 彬	マグロ超音波 AI 検査装置の実用化	17名
311回	2026. 1. 30	尾形 順一 本間 祥	ビジネス×システム融合のプロジェクト規模別アジャイルアプローチ	35名
312回	2026. 2. 27	岡崎 博之	SDGs のウエディングケーキモデルから考える持続する社会	17名
313回	2026. 3. 27	松本 国一	AI の進化が止まらない	46名

表 13. 【PMAJ ジャーナル】

号	発刊月	特集等
82号	4月	新春 PM セミナー2025／投稿レポート（改訂4版 P2M 標準ガイドブック）
83号	8月	関西 PM セミナー2025／投稿レポート／PMR 資格試験挑戦
84号	11月	PM シンポジウム 2025

表 14. 【地域 PM 研究部会の活動報告】

No	名称	活動状況等
地域 PM 研究部会	1 北海道 PM 研究部会	2025年7月17日(金) に北海道 PM セミナー を開催
	2 中部 PM 研究部会	2025年10月10日(金) に中部 PM セミナーを開催
	3 関西 PM 研究部会	2025年6月5日(金) に関西 PM セミナー を開催
	4 中四国 PM 研究部会	2025年10月24日(金) に中四国 PM セミナーを開催
	5 九州 PM 研究部会	2025年12月5日(金) に九州 PM セミナー を開催
6	沖縄 PM 研究部会	2026年2月20日(金) に沖縄 PM セミナー を開催